

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

1. 対 象 5年生

課題に対し自分の考えをもち、学習に取り組む児童が増えてきた。自分の考えと友達のことを比較したり、交流を通して得たことを自分の考えに反映させたりし、得た知識を結びつけ考えを深められるようになってきている。また、単元目標を明確にすることで、本時の課題を解決するための学習方法を自ら考える姿も見られる。

一方で、学級活動の話合いでは時間内に考えを絞ったりまとめたりすることが苦手である。出た意見を整理・分類することには慣れてきたが序列化し最適解を見付けられないことが課題である。本単元の、条件に沿った案を選択するという学習活動を通して、考えをまとめるために大切なことを気付かせたい。

2. 単元名 「よりよい学校生活のために」（全6時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	情報と情報の関係付けのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解して使うことができる。
思考力、判断力、表現力等	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとする態度を養う。

4. 本時の目標

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。

〔思考力、判断力、表現力等〕

5. 授業展開【（本時）・ 単元 】

解決したい課題や問い

話し合いで考えをまとめるためには、どのようなことに気を付けたらよいだろう。

考えるための材料

（見方・考え方）

- ・それぞれの考えを個別でとらえるのではなく、お互いの考えの共通点や相違点を整理する。
- ・問題を解決する上で一番大切なことは何かを明確にし、考えを決定する際の基準となる条件に沿って話し合いをする。

（教材）

- ・自分の考えが書かれた付箋
- ・共通点・相違点、考えをまとめるための条件が記された座標軸

想定される活動

- ・座標軸でそれぞれの考えを書いた付箋を観点ごとに分類・整理し、可視化する。
- ・そこからわかったことをキーワードとして書き込む。
- ・考えをまとめるための条件に一番沿っているものを考え、決定する。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

- ① お互いの考えを出し合いながら、共通点や相違点が何かを考える。
 - ・係活動を自分事として捉えるために、仕事表を掲示することと、仕事をしたかどうかチェックすることは似ているから共通点である。
 - ・呼び掛けをすることは、他人に任せることになるから共通していない。
- ② 共通点や相違点から気付いたことなどをキーワードにして書き込み整理する。
 - ・共通していることをまとめていくと「それぞれの仕事の確認」というキーワードになりそうだ。
- ③ 整理したことから、考えを決定する際の基準となる条件を決める。
 - ・「自分事」であることが大切であるため、「ひとりひとりが取り組む」ことが一番大切なのではないか。
- ④ 座標軸を使い、条件に一番沿う案を決定する。
- ⑤ 話し合いをまとめるために大切なことについて振り返る。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・話し合いで考えをまとめるためには、みんなの考えの共通点や違う点を整理することが大切だと思った。また、整理する中で、条件に一番沿っている案をはっきりさせることで、考えをうまくまとめられると分かった。
- ・学級会でたくさんの意見が出たときにまとめるのが大変になったことがある。今日のように条件を明確にして、条件に沿った話し合いを行うことで、問題を解決するために一番良い案を見つけられることが分かった。